

テーマ別研修

入園受入れ時の対応と保護者支援

日本での新しい園生活に対して、期待と不安を抱いている外国人親子が安心して園生活を始められるようにするには、その保護者の気持ちを受け止めながら連携の仕方を工夫していくことが大切です。この講座の目的は、「外国人保護者を支え共に歩む」ための基礎知識を得て、入園受入れ時の準備や入園後の生活における配慮について学ぶことです。

<本講座の構成>

- 1 外国人保護者と関わる中で気付いたこと・工夫したこと
- 2 入園受入れに当たっての準備や配慮
- 3 安心できる関係を築くための工夫や配慮
- 4 母語や家庭の文化を大切に
- 5 地域の中で支え合う関係づくり

1 外国人保護者と関わる中で気付いたこと・工夫したこと

1-1 外国人保護者と関わる中で気付いたこと・工夫したこと

1-2 外国人保護者と関わる時の配慮点

ここでは、多くの外国人幼児等を受け入れている園の事例を基に、そこでの保護者との関わりを様々な視点から話し合い、それぞれの園でどう対応していったらよいかを、一緒に考えていきましょう。外国人保護者と出会い、関わるようになって、その国の文化を知らないことが多く、たくさんの失敗や混乱を経験して、徐々に折り合いをつけられるようになっていく現状を紹介します。具体例を聞き「こんなときには、自分だったらどう対応しようか」と思い浮かべながら、話し合いを進めていかれるとよいでしょう。

1-1 外国人保護者と関わる中で気付いたこと・工夫したこと

外国人が多く居住している地域（A区）で、多くの外国人幼児等を受け入れ、共に育ち合う園運営を重ねているA園の園長先生から、実際の話聞いています。話の概略は以下の通りです。

① 新しい文化との出会いは保護者、保育者共に戸惑いの連続。そこから工夫が始まる

A園には毎年様々な国のお子さんが入園してきて、その度に先生たちも新しい文化との出会いの連続です。特に、お弁当は日本独特の文化のようで、戸惑いを感じる保護者もいます。例えばある国では、温かい汁ものをお昼に食べることも多く、「昼頃に麺類を届けてよいか」と聞かれたこともありますし、弁当箱の説明を入念に行って、当日ふたを開けたら空っぽだったということもありました。そのときは電話をして「中身も必要」ということを伝えましたが、その国では幼稚園でも給食が主流のようで、「中身は誰が作るの?」と外国人保護者から聞かれ、「お家の方ですが、これから何か持って来られますか?」と伝え、急遽届けてもらいました。弁当やはし、スプーンなどの用具類の説明ばかりしていたということを反省し、以降は中身の入った写真を説明文書に載せるようにしました。

その他に、園にスナックを持参し自由に食べてよい文化の国も多数あるようで、カバンにスナックやフルーツが昼食とは別に入っていることが多くあります。この件に関しては、「本園では保育中には自由にスナックを食べない」「朝食をしっかりと食べてきてください」という園の生活や方針を伝え、理解してもらっています。

② 外国人保護者に園の教育や生活を説明する上で工夫したこと

A区では、入園申込書は、行政が外国語版として英語、中国語、韓国語版を用意しています。園の新入園保護者会に配布する資料（入園のしおり等）については、具体的に写真を入れ、見るだけで理解できるものを工夫しています。入園後に誤解が生じたなどの反省を反映して毎年、更新しています。普段配布する手紙などは、担任が翻訳アプリを活用して作成しています。日々の保育のことを話す際には、各担任がやさしい日本語を使うよう工夫したり、翻訳機を活用したりしています。担任の中には、この機会に「中国語を習いに行くことにしました」などと、自分のスキルアップにつなげることもあります。行事のお知らせや事務連絡等の一斉送信メールは、自動翻訳を活用し、確実に伝わるようにしています。保護者同士は、クラスラインを設定して活用していますが、それは自動的に外国語に変換するように設定されているようで、各学級の保護者で工夫をして意思疎通ができるようにしているようです。

③ 外国人保護者を受け入れて、これまでの当たり前を見直したこと

A園では、制服として夏服と冬服を入園前に一括で購入してもらっています。概ね6月初旬に衣替えの期間を設定していますが、今年の入園式は気温が25度を超える暑い日で、外国籍の方々が夏服で出席されました。最初は驚いたのですが、「暑いだからサマーウエア」というのは当然のことで、衣替えという概念は日本ならではのことで実感しました。このことから、保護者には「暑いと思う日には夏服で結構です」と伝えたところ、親子でその日の気温や体感を話し合っただけで着る服を決めるようになったようで、夏服に冬帽子、冬服に麦わら帽子という組み合わせもありました。この出来事は、今まで当たり前だと思っていたことを立ち止まって考えるきっかけになりました。なぜ衣替えの期間を決めることが必要なのか、今の時代に合っているのか、園内で話し合い、見直すことは大事だと思います。

④ 外国人幼児等がいるということが当たり前の園運営を行う中で大切にしていること

A園の特色として外国籍の幼児が多いということを保護者が理解して、「自分だけが外国人というより安心である」と言って選んで入園されることも多くあります。近くのコスモでは、園の制服や必要な物品が次の世代に譲渡され、教育内容についての情報を伝え合っているそうです。日本の方も「様々な国のお子さんが通う園」ということをご理解いただいて入園されています。

園全体では「多様性を受け止める保育」「インクルーシブ教育システム」について話し合うことが多く、保育者としての「幼児理解」の大きな学びにつながっていると考えています。保育の中では、様々な国のことに関心をもてるような環境の構成を工夫し、「世界の国々」に焦点を当てた話をするなどして、幼児にもよい教育の機会にしたいと考えています。

1-2 外国人保護者と関わる時の配慮点

1-2 外国人保護者と関わる時の配慮点

- ・日本の習慣と外国の習慣の違いへの配慮
- ・外国人保護者の心情への理解
- ・多様性を受け止める園運営
- ・様々な国に親しむチャンスにする

- Q
- ・話を聞いて感じたことや考えたことについて話し合しましょう。思い当たること、共感したことはありますか？
 - ・外国人保護者から要望が寄せられた時の対応のポイントについて、様々な視点から考えてみましょう。

同じような経験がある方は「あるある！」と共感することもあるでしょう。しかし、全く受入れの経験のない園の方は「えっ、そんなことがあるの？」という驚きを感じられるでしょう。この事例の出来事は、受入れ園では比較的よくあることでもあります。

その背景に、教育・保育の内容や、子育ての仕方、食に対する事情が、各国によって大きく違うことがあります。各家庭や園では

「それが当たり前」と理解しているので、驚いたり戸惑ったりします。「日本では当たり前でも、他国では当たり前ではない」、そしてその逆もあります。それぞれの国の文化や子育ての方法を聞いたり調べたりして受け止めつつ、園の方針や、「受け入れられること受け入れられないこと」について話し合うことが大切です。全て、一律に日本のスタイルに合わせることを求めるということではない柔軟な姿勢が大切だと考えます。

反省から学んだことのひとつは、保護者の「分かった」「大丈夫」という言葉をそのまま受け入れてはいけないということです。保護者の「分かった」はこちらが意図する内容とズレている場合もあるかもしれませんし、分からないことを言葉でうまく表現できずに「大丈夫」と言っているかもしれません。再度確認をしたり文章で伝えたりするなど、積極的にコミュニケーションをとることが大切です。

〈問い・話し合いたいこと〉

インタビューから、感じたことを話し合ってみましょう。

Q1 話を聞いて思い当たることや共感したことはどのようなことですか。

Q2 外国人保護者から要望等が寄せられた時の対応のポイントについて、様々な視点から考えてみましょう。

【ファシリテーションのポイント】

- ・実際に外国人保護者と出会い、戸惑いながら対応した例を聞き、感じたことを率直に出し合えるように投げかけていきましょう。
- ・外国人保護者と対応する中で迷ったことなどについても出し合いながら、その時の保護者の気持ちを考え、どのような関わり方をしていくと安心して園生活を始めていけるかについて話し合ってみましょう。

2 入園受入れに当たっての準備や配慮

- 2-1 保護者の気持ちを想像してみよう！
- 2-2 受入れにおける基本姿勢
- 2-3 「言葉が通じない」を乗り越えるために
- 2-4 保護者に聞いておきたいこと
- 2-5 保護者に伝えたいこと
- 2-6 入園説明資料の参考例
- 2-7 活用できる情報紹介

ここでは、外国人幼児等の保護者から入園希望の連絡が寄せられた時の対応について考えます。初めて外国人幼児等を受け入れる時、多くの園が戸惑うと思いますが、同じように、外国人保護者も大きな不安を抱えています。日本の園では当たり前のことであっても、その保護者の母国等ではそうではないこともあります。日本語による意思疎通が困難であることから戸惑いや不安なことを言い出せないこともあるかもしれません。そのため、事前の準備と温かく受け入れる丁寧な対応が必要です。多様性を受け止め支えていくために必要な準備や配慮点について、一緒に考えていきましょう。

2-1 保護者の気持ちを想像してみよう！




保育者は、保護者とコミュニケーションを取りながら、相手が発する言葉を受け止め、その気持ちを推し量っていきます。しかし、その重要な伝達手段の言葉で十分にやりとりができない場合、保護者の気持ちを理解することは難しいです。外国人幼児等を多く受け入れている園の先生が、言葉は通じなくても諦めずに、様々な方法で何とかコミュニケーション


を図ろうと、園側も一生懸命に相手と向き合うことが大事であると話されていました。外国人幼児等が入園を希望してきた時、その親子は期待や不安など様々な気持ちを抱えていることを想像し、保護者の表情や動作も含めて、その心情を理解できるように努めることが大切です。

2-2 受入れにおける基本姿勢

2-2 受入れにおける基本姿勢



【課題】
外国人幼児等やその保護者と出会い、共に園生活を始めていくために大切にすることは？




【対応】

- 相手（子供や保護者）を**理解しようとしている保育者の姿勢**が、相手に伝わるように、**温かな雰囲気**で対応する。
- 相手の持つ文化的な背景を踏まえることが大切。**文化、習慣、宗教等の違いを尊重し配慮する。**
- **園での生活のルール（言語・習慣など）を家庭に押し付けない。**


外国人親子と出会い、受け入れていく上で大切に
する基本姿勢について具体的に考えます。大事な
ことは、相手を理解しようとする姿勢です。国に
よって大切にしていることや習慣に違いがある、
ということを中心に留めて、相手のもつ文化的な背
景、文化、習慣、宗教等の違いを尊重し、保護者
の立場に立って、温かな雰囲気に対応していくよ
うにしましょう。

2-3 「言葉が通じない」を乗り越えるために

2-3 「言葉が通じない」を乗り越えるために



【課題】
外国人保護者やその代理人から入園希望が寄せられましたが、保護者と言葉が通じない場合、入園手続きの説明から戸惑うこともあります。そのようにときにどうすればよいかを中心に考えましょう。



① 本人が信頼を寄せる知人を連れてくる時

▶ 安心感を得られる望ましいケースとして歓迎する。

② 自治体に通訳サービスがある時

▶ 利用できることを伝え、利用希望があった時には派遣申請をする。

③ 自治体に通訳のサービスがなく他の協力も得られない時

▶ 音声通訳機や母国語に翻訳された資料を準備する。

- ◆ 本人の意思を確認して対策を講じる。
- ◆ 通訳が同席する場合は、個人情報の取り扱いに留意する。
- ◆ 同席する通訳者ではなく、本人を見て話す。

外国人保護者やその代理人から入園の希望が
あった場合、どのくらい日本語が分かるのか、日
本語が分かる人と一緒に来られるのかを事前に
確認した上で対応します。日本語で意思疎通がで
きるかどうかによって、対応も変わってきます。
ここでは、保護者と言葉が通じない場合の対応
について考えます。

日本語が分かる知人を連れていきたいという申し出があれば受け入れます。また、本人から通訳サービスを受けたいという依頼があった場合、通訳派遣を自治体に相談するといいでしょ
う。知人や通訳が同席する場合、個人情報の取り扱いには十分に留意します。外国人保護者の中
には知られたくない情報がある場合もあります。通訳を依頼した場合でも、園で必要になる
費用の納付に関して、経済面など知られたくないこともあるかもしれません。本人の意向をき
め細やかに確認しながら進めましょう。


また、日本語が分かる知人の同席や通訳の派遣が難しい場合は、園でできる方法を探ります。
多言語の資料を取り寄せたり、音声通訳機や対話リストの準備をしたりするなど、それぞれの
特徴や利点を踏まえて、状況に応じて活用できるようにしておきます。なお、多言語の資料は
様々なサイトに掲載されています。その一部を後頁に掲載していますので参考にしてください。

2-4 保護者に聞いておきたいこと

2-4 保護者に聞いておきたいこと


【目的】

- 幼児の状況を知る
- 保護者の願いを把握する



【確認する内容の例】

- ・成育歴（来日年齢と滞在期間）
- ・家庭内での言語、日本語の使用状況等
- ・配慮事項（食習慣、生活習慣等）
- ・本名と呼称、保護者本名と呼称
- ・緊急時の連絡方法（日本語が通じる人等）



入園手続き時は、保護者と園長等が重要な情報
についてできる限り正確に意思疎通できることが
重要です。外国人幼児等の受入れでは、日本人幼
児と共通の面もありますが、異文化ゆえの配慮が
必要です。そのために、外国人保護者の要望や幼
児の状況を正確に把握しておく必要があります。
確認する具体的な内容は、動画に掲載されていま

す。その中に「緊急時の連絡方法」がありますが、これはすでに外国人親子を受け入れている園から、これまでに困ったこととして挙げられた項目です。外国人幼児等が体調を崩した時に、緊急の連絡をどのようにするのか、通訳してくれる人に連絡できるのかなど、入園後の早い時期に保護者に確認しておくことが必要です。

また、具体的な内容を聞きながら、保護者が園に期待することについて確認することも大切です。長期滞在を見通して、小学校等などの進学まで望んでいる場合もあれば、滞在期間が短く日本の風土に慣れることなど体験を中心に考えている場合もあるかもしれません。

入園する前に、どの内容もしっかりと把握し、園の方針ややり方を理解してほしいと思いますが、焦りは禁物です。関わりを重ねる中で、保護者が園にどのようなことを望んでいるかを聞き、園が大切にしていることも伝えていく、という姿勢が大切です。

2-5 保護者に伝えたいこと

2-5 保護者に伝えたいこと

【説明する内容の例】

- ・園生活の1日の流れ(預かり保育も含む)
- ・登降園の方法
- ・給食や弁当の対応
- ・制服、当面必要な持ち物等
- ・保護者が参加する行事等
- ・園で必要となる費用(給食費、PTA会費等)

- 行事の写真や持ち物の実物等を活用する。
- 説明内容が伝わったかどうかを保護者の表情などから捉える。
- 園のルールを押し付けない、という姿勢を貫く。
- 集金関係の説明は、誤解を招きやすいので確実に伝える。

入園手続き時に園生活の説明をするときのポイントです。

- ・入園前にこれだけは知っておいて欲しいという必要最低限な情報を確実に伝えられるように、事前に情報を整理する。
- ・写真や持ち物の実物など見て分かるものを活用する。
- ・短い日本語の文に修正したり、漢字にルビをふったり、重要な個所に赤ペンで印をつけたりする

など工夫しておく。

そして、説明内容が伝わったかどうかを保護者の表情などから捉えられるように気を配ります。園のルールを押し付けない、という姿勢を貫きましょう。また、園生活で不明なことはいつでも園長・担任等に相談できることを伝え、安心して園生活を送れるようにすることが大切です。

2-6 入園説明資料の参考例

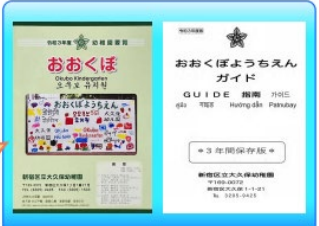
2-6 入園説明資料の参考例

多言語で作成した園要覧の例

外国人が多く居住する東京都新宿区の幼稚園の例

【ポイント】

自園の資料の説明の際に、こうしたものを参考に説明の方法を考えるとよい。



東京都新宿区立大久保幼稚園の園要覧とようちえんガイドを紹介しています。この園では、毎年多くの外国人幼児等を受け入れているので、入園時に配布する「ようちえんガイド」では、家庭で準備するもののページには、外国人保護者も分かりやすくなるように、実物の写真を活用し、説明には、伝えたいことを簡潔にし、ルビをふっています。

また、月に一度発行する園だよりも自治体の協力により多言語版を発行しています（日本語、英語、フランス語、韓国語、中国語、ミャンマー語、タガログ語、タイ語、ネパール語）。



保護者に配布する全ての文書を多言語化することは困難であるため、日常の保育の中でも、丁寧な伝達を工夫しています。例えば、遠足に行く場合には、イラスト等を活用して、大事なことを簡潔に伝えるようにしています。

日本語の習得が十分でない保護者へのお知らせの工夫については、本テキスト「3 安心できる関係を築くための工夫や配慮」で掲載しています。

2-7 活用できる情報紹介

2-7 活用できる情報紹介

資料1 豊富な資料を掲載 愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム
<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/guidebook/>

多様な国の言葉で翻訳されたガイドブック掲載

日本の幼児教育の基本的な在り方を説明するのに活用できます！

幼稚園・保育園ガイドブック

多言語によるお知らせ様式、外国人保護者に分かりやすい日本語の話し方や書き方などを掲載しているサイトがあります。

自園ではどんな工夫ができるのか、今、できることは何かを考えるヒントが見つかると思います。

こちらのサイトでは、母国で幼少期を過ごし日本の幼稚園等について知らない外国人保護者



(2022.11.3 閲覧)

が、日本の幼稚園等のイメージをもち、園の活動や行事等に積極的に参加できるようにすることを目的として作成されています。

2-7 活用できる情報紹介

資料2 外国人幼児の母国の教育事情や国の様子についての情報が掲載 多くの国を紹介

母国の教育事情 (千葉県教育委員会)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyoiku/shidou/gakokujin/gakoku-sensei/gakokujin.html>

知りたいな友だちの国のこと (千葉県教育委員会)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyoiku/shidou/gakokujin/gakoku-sensei/tomodachi.html>

・言葉の通じない外国人保護者には、どのように対応してきましたか。

・紹介された資料を見て参考になったことはどのようなことですか。

・今後取り組んでみようと考えたことを話し合いました。

外国人保護者と連携を進める上で戸惑ったり驚いたりすることがありますが、それは、教育制度や子育ての仕方、食習慣の違いなどは背景にあることも多いです。

このサイトには、様々な国の教育制度や教育内容がまとめられています。外国人親子が、母語でどのような教育を受けてきたのかを知ることができま





(2022.11.3 閲覧)

す。日本との違いを理解することで、保護者の思いや不安を受け止め、より分かりやすく日本の教育内容を説明したり、連携を円滑に進めたりしていくことができます。

この他にも、参考になるサイトを紹介します。小学校入学に向けての対応は、テーマ別研修「外国人幼児等の言葉を育む」で詳しく取り上げています。ここでは、保護者が今後の見通しをもてる情報として活用してください。

<p>東京都 新宿区教育委員会 令和3年度 文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」 (特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究) 【幼稚園における指導上の配慮等に関する研究(外国籍等幼児) —特別な配慮を必要とする幼児(外国籍等幼児)への指導の在り方—】 https://www.mext.go.jp/content/220523-mxt_youji-000014566_14.pdf</p>	
<p>(2022.11.3 閲覧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍等幼児に対する保育・教育の在り方(指導内容・指導方法の工夫)について ・ ユニバーサル・デザインの視点に基づいた環境構成について ・ 組織的な体制の構築について ・ 幼児教育の多言語対応に向けた ICT 機器の活用について ・ 資料「園の対応確認表」、「幼児・家庭の状況確認シート(入園時)」 「幼稚園生活について伝えるときに留意すること」 	
<p>岐阜県 大垣市 「小学校入学ガイドブック—もうすぐ一年生—」 https://www.city.ogaki.lg.jp/0000051669.html</p>	
<p>(2022.12.9 閲覧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● やさしい日本語版(第4版 2022.9月発行) https://www.city.ogaki.lg.jp/cmsfiles/contents/0000051/51669/2022jp.pdf ・ 日本の教育制度、入学手続き、小学校の一年(例)、一日(例) ● この他に・ポルトガル語・中国語・英語に翻訳(日本語を併記している)がある。 	
<p>愛知県 愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム 「国際ファミリーのための日本の小学校に入学する前に」 https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet/</p>	
<p>(2022.11.3 閲覧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本語・ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語・ベトナム語・英語・ネパール語に翻訳 ・ リーフレット(生活編・学習編・教育制度編・教育資金編) 	
<p>神奈川県 横浜市教育委員会 「ようこそ 横浜の学校へ」 I 日本語指導が必要な児童生徒受入れの手引き(2022.12月改訂版) https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyouikukoho/nihongoshido-tebiki.files/0003_20211228.pdf</p>	
<p>(2023.3.12 閲覧)</p>	

<p>●英語・中国語・タガログ語・韓国・朝鮮語・ベトナム語・ポルトガル語・スペイン語</p> <p>・第2章 日本語指導が必要な児童生徒の受入れにあたって</p> <p> I ようこそ、横浜の学校へ～支援の流れ～</p> <p> 1 日本語指導が必要な児童生徒への各種支援の流れ</p> <p> 入学までの手続き</p>	
<p>三重県 三重の教育 三重県教育委員会ホームページ</p> <p>『外国人等保護者のための学校ガイダンス』「日本の学校は、こんなところ」</p> <p>https://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/27427025524.htm</p> <p>(2022.12.9 閲覧)</p>	
<p>●日本語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・韓国語・英語・タガログ語</p> <p>・日本の学校制度、就学の手続き、学校生活</p>	
<p>静岡県 静岡県教育委員会</p> <p>多言語リーフレット 外国人児童生徒・保護者のための学校の手引き</p> <p>「ようこそ！日本の学校へ」</p> <p>http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-060/youkosonihonnogakkou.html</p> <p>(2022.12.9 閲覧)</p>	
<p>●日本語・スペイン語・フィリピン語・ポルトガル語</p> <p>・日本の教育制度、小学校・中学校の一年、学校の日、学習する内容</p>	

〈問い・話し合いたいこと〉

- Q3 言葉の通じない外国人保護者には、どのように対応してきましたか。
- Q4 紹介された資料等を見て参考になったことはどのようなことですか。今後取り組んでみようと考えたことを話し合いましょう。

【ファシリテーションのポイント】

- ・ いろいろな工夫や情報を基に、自園ではどんな対応ができるでしょうか。園でできること、保護者や地域に協力をお願いしたいこと、教育委員会や自治体に依頼したいことなど、様々な視点で具体策が出るように進行しましょう。
- ・ 外国人保護者の対応は、園の職員みんなで同じ姿勢で進めることが大切です。その基本的な姿勢を共有できるような話し合いになるように工夫しましょう。

3 安心できる関係を築くための工夫や配慮

3-1 毎日の関わりを積み重ねる

3-2 双方向でやりとりできる機会をつくる

3-3-1 楽しく園行事に参加できるように

3-3-2 お知らせの工夫例

3-4 保護者同士の関係を築く：一人一人に応じた関わり

いよいよ園生活が始まりました。外国人親子が安心して過ごせるよう、保育者は、当該親子が暮らしていた国の生活などに関心を持ち理解しようとする姿勢を保つなどして、その親子が園に受け入れられ、見守られているという安心感をもてるようにしていきましょう。

ここでは、工夫例を紹介します。


3-1 毎日の関わりを積み重ねる

外国人保護者が園生活に慣れ安心して過ごせるようにするための工夫を考えます。

3-1 毎日の関わりを積み重ねる

【課題】 外国人幼児等と保護者が園生活に慣れ、安心して過ごせるようになっていくために、どのような関わりを重ねていけばよいか、具体的に考えてみましょう。

- ① 母国の宗教や文化、食事等について情報を収集する。その国の言葉を掲示したり、母国の絵本を子供たちが手に取れるようにする。
- ② 笑顔で挨拶などの関わりを重ねる。
- ③ 降園時に、その子が楽しんだ様子が分かる写真や動画を見せ、元気に園で過ごしていることを実感できるようにする。
- ④ 翻訳アプリなどを活用して、家庭での様子や保護者が感じていることを聞かせてほしい、と思っている保育者の気持ちを示していく。



【工夫例①】

当該親子の母国の宗教や文化、食事等について情報を収集します。園内の表示にその国の言葉を記入したり、母国の絵本を探して子供たちが手に取れるようにしたりするなどして保育者が当該親子に関心を寄せていることが感じ取れるように工夫します。

【工夫例②】

登園、降園の際、相手の母語を使って挨拶を交わすよう心がけます。表情、身振り、手振りは非言語的コミュニケーションといい、言語的なコミュニケーション以上に相手に伝わると言われています。保護者が親しみや安心感を抱いていただけるように、笑顔で接していきます。

【工夫例③】

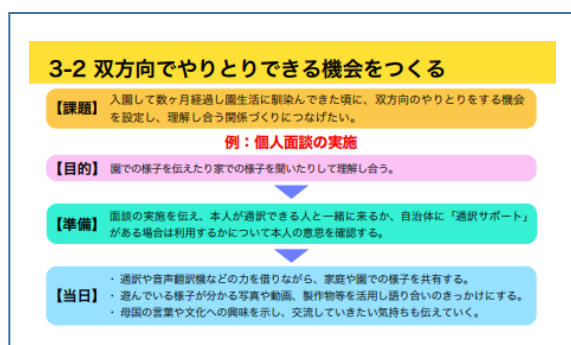
降園時に、楽しく遊んでいる様子が分かる写真や動画、実物を用意し、それを見せながら伝えることで、我が子が園で元気に過ごしていることを実感できるようにします。保護者は、我が子の園生活が分かると、園生活について母語で子供に尋ねたり、子供が報告したりして語り合うことができ、園生活の喜びを共感することにもつながります。親子にとって、母語で思いのたけを語り合う時間はとても大切ですので、こうした働きかけを大切にします。

【工夫例④】

慣れない日本での生活に疲れているような様子が見られたら、他機関に相談、連携することも大切です。保護者で語学が堪能な方がいれば、外国人幼児等の保護者の意向を確認し個人情報の取り扱いに留意した上で通訳をお願いして、保護者の気持ちを受け止めていく関わりも大切にします。

3-2 双方向でやりとりできる機会をつくる

園での様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、互いの思いを重ねるための面談はどのように設定したらよいかについて考えます。



入園して数ヶ月経った頃に個人面談を行い、園での様子を伝えたり、家での様子を聞いたり、双方向でやりとりできる機会をつくることで、互いの理解が進むことが期待できます。

初めての面談です。外国人保護者が不安にならないような進め方を考えてみましょう。

- ① 面談を実施することを伝え「通訳サポートを利用しますか？」と保護者に確認します。
- ② 保護者の選択により対応が変わります。

⇒「YES」の場合

通訳サポートの依頼をします。通訳が同席することになったら、初めは、保育者が同席せずに、保護者と通訳の方だけで話す時間をとります。そこで本音が出る場合もあるようです。保育者が加わっての面談は、30～40分程度で行います。面談後、保護者が帰った後に、通訳と保育者で話す時間をとり、保護者の思いを確認したり、保育者の話を理解できたか面談の内容を振り返ったりします。

⇒「NO」の場合

保護者が「通訳サポートの利用」を断る理由には、「知らない人はイヤ！」という気持ちがあるようです。知人（会社の通訳など）や、日本語が分かる家族など、保護者が安心できる人と一緒に来てよいことを伝えていきます。

「日本語が分かるから必要ない！」と言われることもあります。そのようなときは、翻訳アプリなどを活用し、双方で努力しながら会話していくようにします。

面談のポイント

- ・ 子供の話題で、保護者と保育者が通じ合ったり笑い合ったりしながら、共感し合えるようにする。
- ・ 保護者が感じていることを率直に話せるような雰囲気を大切にする。
- ・ 時間をとって語り合うことで保護者との距離が近くなり安心できる関係の基盤ができることを願い、保護者の話を聞きたいという気持ちを伝えていく。

双方向でやりとりできる機会を通して、外国人保護者も率直な質問や要望を出せるようになっていきます。どんな内容でも誠実に受け止め、園の方針、園でできること・できないことを伝え、理解し合えるようにしていくことが大切です。動画冒頭で、外国人保護者との関わりのエピソードを話してくださった園長先生から、保護者の具体的な声とその時の園の対応の一部をあげてもらいました。自園ではどのような対応ができるのか考えてみましょう。

保護者の声：幼稚園で文字や数を指導しないのはなぜか？

園より：中国や台湾、韓国では、教育熱が高く、小学校の授業のようなイメージをもっている場合があります。一方で、自由を重んじる国からは、なぜ椅子に座って話を聞くのか？等、管理的に感じられることもあります。直接体験の中で学ぶことの重要性や、自発性・自主性の大切さは、なかなか伝わりにくいこともあります。各国の教育事情について調べて理解した上で説明していくように努めています。

保護者の声：ランチボックスにビスケットはOK？

園より：日本のお弁当よりも自由度が高いようで、食中毒などを注意する以外は、何を持ってきてもよいのではないかという意向が強いです。保護者の要望を聞いた上で、園でできること、できないことを個別によく話し、対応できるようにしています。

保護者の声：先生や、お友達に、お菓子やプレゼントをあげるのはなぜダメなの？

園より：プレゼントの文化は多く、自分の子供の誕生日には、友達にお菓子を配ったり、ごちそうをふるまったりすることを園内で行いたいという要望が出る場合があります。個人のホームパーティーでしていただきたいと伝えます。また、旅行に行ったり、自国に帰国したりした後、おみやげを学級みんなに配ってほしいと言われることもあります。園では配れないことを伝えましたが、日本はみんな同じにしなければいけないと思いきる、と言われました。相手の国の文化や風習を受け止めながらも、園の方針を理解してもらえるように、丁寧に繰り返し伝えていきます。

保護者の声：どこで買い物をしたらよいか分からない、病院はどこ？

園より：幼稚園で使うもの（水着やプール用のタオル、お弁当の用品など）や、子供用の洋服など、どこで買うか分からないという問い合わせが多くあります。特定のお店を紹介するわけにはいかないため、近隣で買えるところを多く紹介しています。病院も評判の良いところを知りたい、という声もあり、他の保護者にやり取りに加わってもらったりつないだりしています。

3-3-1 楽しく園行事に参加できるように

保護者が参加する園行事（運動会、親子遠足、保育参観など）の趣旨を理解して、楽しく参加できるようにするための配慮や援助について考えましょう。

3-3-1 楽しく園行事に参加できるように

【課題】 保護者が参加する園行事（運動会、親子遠足、保育参観など）の趣旨を理解して楽しく参加できるようにするための配慮や援助について考えましょう。

例：保育参観を実施

【目的】 園生活の実際を参観し、我が子の様子を見たり、保育者と話したりすることで安心感をもつ。
他の保護者の話を聞いたり、自分も話したりすることで、親しみをもつ。

お知らせの工夫
「保育参観」の目的や集合場所、時間、園行事の内容を分かりやすく伝える。
→工夫例を紹介

保護者の要望
「知り合いの人(通訳できる人)と一緒に、など、保護者の要望を受け入れ安心して参加できるようにする。

当日の対応
参加して「楽しかった」「よかった」という思いが残るように、参加の様子を捉え、必要に応じて声をかけるなどしてよい経験につなげる。

動画では「保育参観を実施する」という計画を例にしています。他には、どんな配慮や工夫ができるでしょうか。

3-3-2 お知らせの工夫例

お知らせの文章を作成するとき、大切なことがしっかりと保護者に伝わるためのポイントは何か？ 保育参観のお知らせの工夫例を3点紹介します。

【工夫1】大事なところに DAIJI マーク、アンダーライン！

保護者の皆さま ○ 幼稚園長 00 00

保育参観の実施について

肌寒い日が続きますが、子供たちは様々なごっこ遊びや造形活動などを楽しんだり、遊戯室では存分に体を動かして遊んだりしながら幼稚園生活を楽しくしています。その園生活の様子を、下記の日程で保護者の皆様にご覧いただきたいと思ひます。

遊びの中で、子供たちが友達とかわりながら自分の思いを伝えたり、遊びをつくり出したりしている姿を見ていただき、子供の成長をともに喜びたいと思ひます。

記

1 日 時 令和3年11月16日(火) 9:30~10:30

2 当日の保育の流れ

- ・年少組 好きな遊び、(10:00~遊戯室で)表現遊び
- ・年中組 好きな遊び、(10:00~保育室で)空き箱製作
- ・年長組 遊園地ごっこ (10:00~保護者の方も、遊園地ごっこに参加できます)

3 その他

- ・保育時間は通常と変わりませんので、子供には、弁当を持たせてください。
- ・保護者の方は、9:00から9:30まで、遊戯室で待つこともできます。
- ・保護者用の上履き(スリッパ等)を持参してください。

DAIJI マークやアンダーラインをつけて、大事なポイントを際立たせます。

指差ししながら説明して伝えていく方法があります。

こちらは、保育参観についてのお知らせですが、日時や持ち物にアンダーラインを引くことで、際立たせています。

クラスによってやることが違うので、自分はどこなのかが分かるようにアンダーラインを引き、大事という印(DAIJI)もつけています。

【工夫2】ルビをふる

保護者の皆さま ○ 幼稚園長 00 00

保育参観の実施について

肌寒い日が続きますが、子供たちは様々なごっこ遊びや造形活動などを楽しんだり、遊戯室では存分に体を動かして遊んだりしながら幼稚園生活を楽しくしています。その園生活の様子を、下記の日程で保護者の皆様にご覧いただきたいと思ひます。

遊びの中で、子供たちが友達とかわりながら自分の思いを伝えたり、遊びをつくり出したりしている姿を見ていただき、子供の成長をともに喜びたいと思ひます。

記

1 日 時 令和3年11月16日(火) 9:30~10:30

2 当日の保育の流れ

- ・年少組 好きな遊び、(10:00~遊戯室で)表現遊び
- ・年中組 好きな遊び、(10:00~保育室で)空き箱製作
- ・年長組 遊園地ごっこ (10:00~保護者の方も、遊園地ごっこに参加できます)

3 その他

- ・保育時間は通常と変わりませんので、子供には、弁当を持たせてください。
- ・保護者の方は、登園時間から9:30まで、遊戯室で待つこともできます。
- ・保護者用の上履き(スリッパ等)を持参してください。

日本語に親しみ始めた外国人保護者は「自分で読みたい」という気持ちを持ち始めます。その気持ちに答えていく方法として、漢字にルビをふっています。

手紙を示しつつ、保育者や他の保護者が読み上げ、説明を加えると更に効果的です。

【工夫3】簡単な日本語で、「これだけは！」を知らせる



簡単な日本語で最小限の内容を知らせる方法です。「Aちゃんのほごしゃさま」と書くことで我が子のことだと伝わります。

「Aちゃんがにほんごをおぼえて、ともだちと、あそぶすがたをみてください。いっしょにおはなししましょう」と何をするのかを分かりやすく伝えています。

保護者は、「自分と一緒に来て一緒に帰ると思いがち」なので、参観時間は「9:30~10:30」と書き、「Aちゃんがようちえんにくるじかんは9:00、かえるじかんは14:00」と登降園の時間を別に書いています。

「保育参観についてのお知らせ」について、3つの例を紹介しました。園だより等の配布物は、保護者に配布したものの、理解してもらえているのだろうかと思いがつきません。

外国人保護者にとって、【工夫3】が最も分かりやすいようですが、個別に作成することは、時間がかかり、負担もあります。保護者の要望としては、「簡単な日本語」すなわち、「やさしい日本語」で伝えて欲しいようです。

私たちが、日常的に使う言葉も「簡単な日本語」「やさしい日本語」に置き換えるとどうなるでしょうか？ 考えてみましょう。

- ・登園時刻⇒ようちえんにくるじかん
- ・降園時刻⇒ようちえんにむかえにくるじかん
- ・提出 ⇒ようちえんにだす、せんせいにわたす
- ・お越しください⇒きてください

更に詳しく知りたい方は、以下のサイトをご覧ください。

参考：文化庁「在留支援のためのやさし日本語ガイドライン」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html



(2022.11.3 閲覧)

3-4 保護者同士の関係を築く ～一人一人に応じた関わり～

外国人保護者が力を発揮したり他の保育者と親しんだりするためには、どのような配慮をしたらよいでしょうか？積極的に関わりたい保護者もいれば、関わることをあまり好まない保護者もいます。一人一人の保護者の様子を捉えながら、無理のない形で互いが関わる楽しさを味わえるようにする配慮について、事例から考えていきましょう。

【事例①】 外国人幼児等の保護者から「オランダの絵本を見せたい」という声を受けて (5歳児 12月)

B児親子は5月にオランダから来日して途中入園しました。母はオランダの母国語と英語を話し、父親はその2か国語に加え、覚えてたの日本語を話していました。

○保護者ボランティアによる手遊びや絵本の読み聞かせ会に、B児の保護者も参加する

園では、月1回、降園前にボランティアによる手遊びや絵本の読み聞かせの会を実施していました。保護者も参加できることを伝えたところ、B児の保護者は3歳の妹を連れて参加しました。日本語で進めているため分かるのだろうかと心配しましたが、B児の保護者と妹は、ボランティアの手の動きに合わせて手を動かしたり、絵本を集中して見たりなど、楽しんでいる様子が見られました。会が終わると、「オモシロカッタ」と日本語で感想を言って帰っていきました。その後も、毎月、楽しみに参加する様子が見られました。

○12月、B児の母親から「家から絵本を持って来て皆に見せたい」という申し出がある

B児の母親の嬉しい申し出に「是非お願いします！」と応え、12月の読み聞かせをお願いすることにしました。B児の母親が選んだ絵本は、ミッフィーがクリスマスをわくわくしながら待つという内容の絵本でした。そこで描かれているサンタクロースの服装はオレンジ色でした。

○絵本読み聞かせ当日の様子とその後の子供たちの姿

絵本の中には、オレンジ色の服を着たサンタが登場しました。「どうしてオレンジ色の？」という子供たちの質問に、「オランダではサンタはオレンジ色の服を着ている」という答えが返ってきました。子供たちは、「国によってサンタの服装の色が違う」ということや、ミッフィーの作者ディック・ブルーナーはオランダ人であることを知りました。オランダのことをもっと知りたい、という声が子供たちの中から起こり、オランダの絵本コーナーを作り、オランダへの親しみが増していきました。

<この事例を基に話し合ってほしいこと>

- ① 「絵本の読み聞かせをしたい」という声が保護者から出てくることにつながったと思われることを出し合ってみましょう。
- ② 保護者が力を発揮する機会を作ることは、保護者自身にとって意味があるだけでなく、外国人幼児等にとっても意味をもつと思われれます。そのことについても話し合ってみましょう。
- ③ その他、自由な観点から、この事例について語り合ってみてください。

【事例②】 保護者同士が関わるきっかけを作り、関わりを広げる

異国での大人同士の関わりは、きっかけがないとハードルが高くなりがちです。外国人幼児等を毎年多く受入れている園での実践を紹介します。

○ 保護者が参加する行事や世界の国への理解を深める環境づくりを大切に

園では、保護者同士の関わりをきっかけを作れるよう、保護者が参加する行事を大切にしています。「気が進まないと思って参加したけれど、とっても楽しかった」という感想を聞くことが多くあるので、その環境づくりと関わりの橋渡しが大切だと考えています。様々な国の文化を伝え合うことは、全ての保護者にとって有益と考えるので、折に触れて園児に伝えるのと同じように、世界の国の理解を深めるような掲示物や、紹介の場面を作るようにしています。

○ 保護者の声掛けで懇親会を開催する

保育中の時間に公民館などの場所を借りてゲームやダンスなどを楽しみます。「こんなに楽しいママイベントがあるなんてうれしい!」「パパ友、出来ました」という声が聞かれました。保護者の交流が目的ですが、外国人保護者への配慮は常に行われています。

○ 保護者のボランティア活動を無理のない範囲で楽しめるように

園では保護者が参加できるボランティア活動がいくつかあります。その趣旨を英語が堪能な保護者が詳しく説明し、「楽しいイベントがあるから入りませんか」と呼びかけます。それぞれの活動の中で自己紹介や情報交換をすることも多く、必須の参加ではないながら、比較的良好に参加されています。学級でのつながりだけでない多様なつながりが出来、他学年に在籍している外国人幼児等の保護者同士が会おうきっかけにもなります。最初はよく分からずに不安そうに出席していた方々も、だんだん会話が弾むようになり、日本語が上達する姿も見られました。流暢に日本語を話すスリランカ人の保護者に、「日本語上手ですね」と伝えた際に「全部ママ友から教えてもらった。最初は何にも分からなかったの。」と言っており、子供と同じで、関わりが多いほど言葉も獲得していくのだと実感しました。

○ プライベートな関わりを大切に

このような取組がきっかけとなって、プライベートで、キムチや、キョーザ作り、ボルシチや、お菓子作りなどを、少人数で集まって楽しむ様子も見られました。

<この事例を基に話し合っほしいこと>

- ① 外国人保護者が安心して過ごせるようになるために大切だと思うことを、この事例を参考にしながら考えてみましょう。
- ② 事例で紹介した取組について、よりよい関わりが広がるために配慮すべきことについて、多様な観点から出し合ってみましょう。
- ③ その他、自由な観点から、この事例について語り合ってみてください。

〈問い・話し合いたいこと〉

Q 5 実際に外国人保護者と対応した事例をいくつか挙げました。事例を読み合いながら、保護者との関わりで大切にしたいポイントや配慮点について考えてみましょう。そして、外国人幼児等やその保護者が安心して過ごせるようにするために配慮することや対応することについて、自分の園では何ができるか、具体的に考え合ってみましょう。

【ファシリテーションのポイント】

- ・ 外国人幼児等や保護者の状況は一人一人違います。それぞれに応じることが大切ですが、まず一般的な対応や配慮事項を確認することから始めましょう。すでに多くの外国人幼児等や保護者を受け入れている園でも、初心に帰って学び合う機会になるよう、研修を進めていきましょう。
- ・ 外国人保護者の意思や気持ちを尊重する姿勢が大切です。研修の中でも、場面に応じて「保護者はどのような気持ちだろう？」「戸惑うのはどのようなことかな？」という問いを投げかけていきましょう。
- ・ 「やさしい日本語」については、資料等を読み合い研修することで、手紙を「やさしい日本語」で書き換えてみようという意欲が高まるようにしていきましょう。

4 母語や家庭の文化を大切に

4-1 親子のコミュニケーションも豊かに

4-2 家庭では母語・アイデンティティの確立を

二つ以上の言語を使う環境で育つ子供たちの言語の発達にとって、家庭において保護者の母語での関わりは重要な意味を持ちます。母語で、自分の思いを存分に話す中で、家庭内の共通言語を習熟させ、子供のアイデンティティを育む重要な機会となります。言葉の獲得の基盤は「伝えたい人がいて、伝えたいことがある」ということです。

基礎理論研修「3 言葉を獲得するとは」「4 多文化環境で育つ子どもたち一園と家庭・地域で言葉を育むために」で学んだことを基盤において、家庭での母語でのコミュニケーションが豊かに展開していくための援助や配慮について考えてみましょう。

4-1 親子のコミュニケーションも豊かに

4-1 親子のコミュニケーションも豊かに

母語では存分に思いを話し、伝え合うことができます。家庭においては、母語でコミュニケーションを楽しんだり一緒に考えたりする機会を大切にしてほしい。そのために何をすればいいでしょうか。

シャボンがいっぱいできたよ。お友達にいっぱいかけちゃった。

シャボンをいっぱいかけたって、どういこと？ お友達を困らせたくないじゃありませんか？

園生活が分からない → 不安

家庭では、親子で母語でのコミュニケーションを楽しんだり一緒に考えたりすることで、自分の気持ちを受け止められた嬉しさや安心感を抱くようになっていきます。その子が楽しく遊んだことを写真等を見せながら伝えると、子供の言葉だけでは分からなかった遊びの様子が伝わり、親子のコミュニケーションが広がるきっかけになります。

例えば、シャボン玉で楽しく遊んだ楽しさを、子供が「お友達にいっぱいかけちゃった！」と話す時、保護者は「お友達にかけちゃった」という言葉が心に残り、友達に悪いことをしたのではないかと考え、場合によっては叱ってしまうかもしれません。でも、保育者が遊びの様子を写真で見せながら説明すると、友達と一緒に楽しく遊んでいた様子が伝わっていきます。

4-1 親子のコミュニケーションも豊かに

先生から写真を見せてもらったわ。楽しかったのね。よかった。お友達も喜んでたのね。

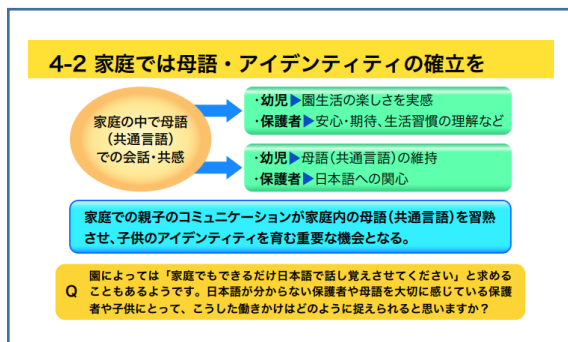
うん。喜んでくれたよ。こうやってやるの。見て！

写真を使って、保護者に園生活の様子を知らせることで、子供の言うことが理解できるようになる。

園生活を理解 → 安心感・信頼感 → 家庭での親子の会話(母語)が弾む

我が子が園生活の中で経験していることや、その中で楽しんでいることを実感することは、家庭での親子のコミュニケーションが豊かに展開していくきっかけになります。園生活の理解が安心感や信頼感につながるの、写真や実物を見せたり、時には保護者にも体験してもらったりしていくことが効果的だと考えます。

4-2 家庭では母語・アイデンティティの確立を



親子のコミュニケーションが豊かになることによって獲得することを図に整理しました。

外国人幼児等は、保護者と楽しさを共有することで園生活の楽しさを実感し、保護者は我が子の園生活の様子を知ることによって安心し、園生活への期待を持ちます。

家庭での母語での会話が、外国人幼児等にとっては母語の維持につながり、保護者は保育者と会

話することを通して日本語への興味や関心を深めることが期待できます。

園生活と家庭生活がつながっていくように保護者に働きかけることは、外国人幼児等の思考や認知、社会性の発達を支える大切な援助なのです。

〈問い・話し合いたいこと〉

- Q 6 園によっては「家庭でもできるだけ日本語で話し、覚えさせてください」と求めることもあるようです。日本語が分からない保護者や母語を大切に感じている親子にとって、こうした働きかけはどのように捉えられると思いますか？

【ファシリテーションのポイント】

- ・ 言語の獲得や母語の意味について述べている基礎理論研修の内容について確認するように促すことで理解を深めていきましょう。
- ・ 外国人保護者に園生活の様子を伝える伝え方として「こうしたらよかった」と経験談を出したり、「こんなこともできるかもしれない」と新しいプランを出し合ったりしながら、親子での会話が弾むきっかけとなる働きかけを具体的に考え合えるようにしましょう。

【ワンポイントアドバイスー「母語を大切に」～基礎理論研修から】

- ・ 母語の重要性について触れ、園から保護者への啓発を促すようにしましょう。
- ・ 母語の大切さについては、基礎理論研修で詳しく説明しています。

(研修動画 URL は

<https://www.youtube.com/watch?v=RYNDBwJS3jA>)



(2023.3.12 閲覧)

5 地域の中で支え合う関係づくり

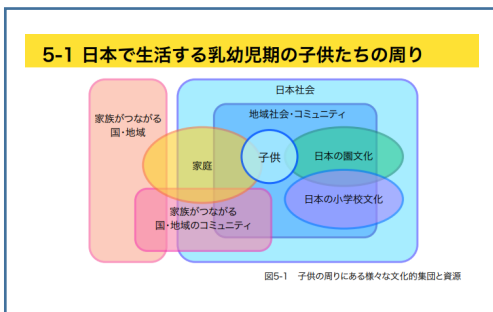
5-1 日本で生活する乳幼児期の子供たちの周り

5-2 子供の成長をとりまく地域資源

5-3 誰と連携したらよいか

園がつなぎ手となって、外国につながる幼児とその家族を、地域の中で支えるために知っておくべきことは何かを考えます。地域にある、活用できそうな人、もの、ネットワークのことを「資源」「リソース」と捉えて考えてみましょう。外国につながる家族は、日本語では見えないリソースを持っているかもしれません。そうした外国人コミュニティのリソースは、園で活用することもできます。

5-1 日本で生活する乳幼児期の子供たちの周り



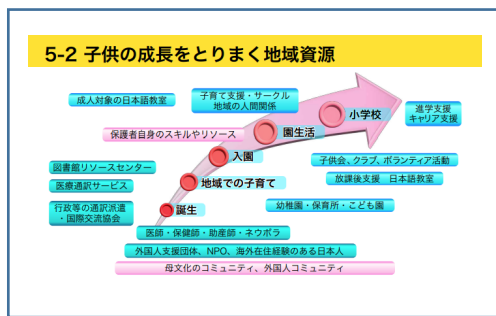
改めて、乳幼児期の子供たちが育つ環境について、「文化」という視点から考えてみましょう。

どの子供も家族の文化との中で育ちます。入園は家庭と異なる文化コミュニティとの出会いです。この時、家庭の文化が園文化との違いが大きいほど子供の戸惑いは大きくなるでしょう。そのため、外国人幼児等の場合、よりストレスが大きくなります。

同時に、園は、子供にとっても親にとっても小学校の文化につながる入り口になります。園での体験が楽しい肯定的なものであれば、日本語の世界に入っていくことが肯定的になります。園での経験が重要なのは、このためでもあります。

他方で、外国につながる家族の場合、その家族が住んでいる地域社会コミュニティ以外に、保護者は母国とのつながりを維持していることが多いです。あるいは、地域に家族が繋がれる国や地域のバックグラウンドを持ったコミュニティにつながっていることが多いようです。つながりがあると、母語・母文化の維持ができやすくなります。このような子供の周りにある大小のコミュニティを文化的資源・リソースと考えます。

5-2 子供の成長をとりまく地域資源



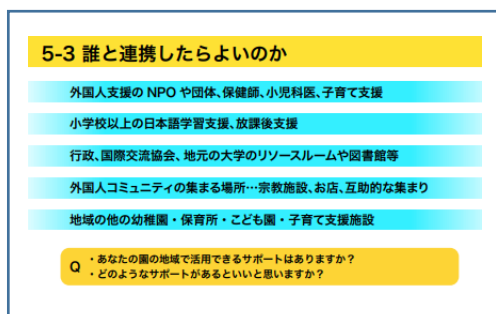
生活していく上で活用できる制度や人脈、ネットワークなどのことを、「地域資源」と呼びます。この図では、産前産後から入園、小学校入学までの時間の流れを含めて代表的なものを整理しました。

ピンクは外国籍の方のもつ資源です。青色は、日本の制度や仕組みの中にあり、互いに連携し合うことができる地域の資源を示しています。

医療や母子保健を担当する方たちは、家族支援の鍵になります。妊娠・出産からの包括的な切れ目のない支援を行う取組を、フィンランドのネウボラ制度にならって、日本型ネウボラと呼び各地で取組が始まっています。

こうした仕組みと園がつながり、園は次の地域資源に子供と家族をつなげていただけたらと願っています。

5-3 誰と連携したらよいか



具体的な連携のパートナーは、地域によって異なるでしょう。ここでは、おそらく多くの地域であるだろう連携相手を抜き出してみました。

ない場合は外国人支援の経験が多い、隣の市町村や県の機関でもよいのです。

どうやっているのか、資料はないか、お互いに聞き合い伝え合っていく関係が普段からできていると、困ったときに助け合うことができます。インターネット上

にも様々な資源があります。

NPOが運営するリソースセンターや、国際交流協会の図書館、地元の大学などには、多文化共生教育の教材や多言語図書があります。ある町では、フィリピンコミュニティを支える教会が、自治体を超えた広域の支援をしています。園が抱え込まないこと、園が地域とつながることを心にとめて日々の保育に取り組んでください。

そこで、次のことをみなさんで考えてみてください。

〈問い・話し合いたいこと〉

Q7 あなたの園の地域で活用できるサポートはありますか？

Q8 どのようなサポートがあるといいと思いますか？

おわりに

おわりに

- 外国人幼児等やその保護者との出会いは、様々な国の文化や言語に触れるチャンスです。出会いを喜び、歓迎する気持ちを持ち、双方向のやりとりを大切にしていくことで豊かな経験が広がっていきます。
- 子供の成長を取り巻く地域資源について理解し、連携を進めていくことも大切です。
- 外国人保護者と共に歩む園生活の在り方、安心できる関係づくりなど、具体的な工夫を紹介しました。見終わって感じたことについて話し合ってみましょう。各園の状況や入園する外国人幼児等の実態に合わせて実践してみてください。

外国人幼児等やその保護者との出会いは、様々な国の文化や言語に直接触れることができる貴重な機会になります。多様性を実感し、世界への興味が広がっていくきっかけとなるように、大切に受け止めていきましょう。出会いを喜び歓迎する気持ちは相手に伝わっていきます。双方向のやりとりを大切にしていくことで、豊かな経験が広がっていきます。

外国人幼児等やその保護者を受け止めることは、園だけでできるものではありません。様々な地域資源やネットワークを活用し連携していくことが必要です。それぞれの地域にどのような資源があるのか、まず把握することから始めましょう。

外国人保護者と共に歩む園生活の在り方や安心できる関係づくりなどについて、具体的な工夫を紹介しました。各園の実態や入園される外国人幼児等やその保護者の実態によって、対応はそれぞれ違ってくると思います。向き合う気持ちを持ち、様々な機器や情報を活用しながら対応して行ってください。

【ファシリテーションのポイント】

- ・ 日本語でのコミュニケーションが十分にとれない外国人保護者と信頼関係を築くためには様々な配慮や工夫が必要です。自園では、自分なら、どんな取組ができるのか、参加者がそれぞれに考えや意見を出せるようにしましょう。
- ・ 外国人保護者に園の教育内容や方針を分かりやすく伝えるには、そのポイントを絞ることが大切です。その過程で自園の教育を全職員で見直していく機会にしましょう。
- ・ 外国人幼児等がない園では、今後、受け入れる場合に備えて、何を準備しておけばいいのかを考える機会にするとよいでしょう。